

報 告

総合支援学校と連携した離島における海浜実習

○村本名史*1 楊井正明*1 長田光雄*2

キーワード：総合支援学校、離島、海浜実習

1 はじめに

山口県では「山口県特別支援教育ビジョン実行計画」¹⁾に基づき、障害のある幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を通して、生きる力を高め、地域における医療、福祉、労働等の関係機関との連携の中で、自立・社会参加を支える、心ふれあう特別支援教育を推進している²⁾。中でも萩総合支援学校は、教育目標として「個々の障害と特性に応じて、その成長と発達及び人格の形成を助け、豊かな感性と主体性を培い、社会で自分らしく生きる力を育てる」ことを掲げ、めざす子ども像として「個性豊かな子」「明るい子」「がんばる子」「助け合う子」を挙げ、様々な教育活動を行っている³⁾。

一方、本大学には野外活動教育の研究および実践を行っている教員および卒業後には社会で即戦力として期待される学生がおり、野外教育に必要な備品も有している。大学の地域貢献の一環となる地域住民や近隣施設との協力による野外活動教育の実施は、大学と地域の双方にとって大きなメリットを持つものになる可能性がある。しかし、大学と総合支援学校が協力して野外活動教育プログラムを安全かつ効果的に実施するためには、野外活動または特別支援教育に関する専門知識および技術を有するスタッフの確保、必要な備品の準備および使用方法の熟知等の様々な課題が存在する。

そこで本研究は、萩総合支援学校の生徒を対象として、山口県萩市の海洋資源豊かな離島で海浜実習を実施することにより、生徒とその保護者の方々に自然と触れ合う喜びを感じてもらおうと共に学生の支援および

野外実習スキルを高めるための野外教育プログラムを計画し実施することを目的とした。

2 方法

1) スタッフおよび参加者

教育スタッフとして、総合支援学校男性教諭3名、萩市社会福祉協議会男性職員1名、大学男性教員2名（日本スノーケリング協会公認スノーケリングインストラクター）が参加した。大学生スタッフには、女子6名（1年生1名、2年生1名、3年生4名）が参加した。大学生スタッフには公募後に本実習の趣旨と内容を説明し、参加する同意を得た者に詳細な活動内容を伝え、実習準備から共に実施した。



図1 教育スタッフおよび大学生スタッフ

参加者は、萩総合支援学校の生徒から募り、できる限りその保護者と参加するように伝えた。その結果14名（高等部5名、中学部4名、総合支援学校卒業生1名、一般中学生2名、一般小学生2名）およびその保護者14名の申込があり、教育スタッフと大学生スタッ

*1 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部

*2 萩総合支援学校

フを含めて合計 40 名の海浜実習となった。なお、高等部 5 名、中学部 4 名、卒業生 1 名においては、知的障害もしくは発達障害をもつ療育手帳保持者であった。



図2 スタッフと参加者

2) 実習場所

実習場所は萩港（山口県萩市浜崎地区）から約 45km に位置する離島である見島を選定した。見島は山口県最北端に位置し、豊かな自然に囲まれた周囲 18km 面積 7.8km² の小さな秘島であり、萩港から高速船「おにようず（鬼揚子、258 トン、図 3）」を利用して本村港（70 分）または宇津港（90 分）へ渡ることができる⁴⁾。見島漁港（宇津地区）では夏にはキス、ベラ、アジが釣れ、投げ釣りでアオケビをエサに遠投するとキスは大型が主体で数も出るが、夜釣りで狙うと型が良くなるという魚種が豊富な島である⁵⁾。



図3 高速船「おにようず」

この見島周辺にはクロマグロなどが回遊する日本有数の好漁場である見島八里ヶ瀬がある。ここでは萩クロマグロトーナメントが毎年行われており⁶⁾、俳優の松方弘樹さんが第 11 回、第 12 回と 2 年連続 300kg を超えるクロマグロを釣り上げたことでも知られている⁷⁾。この漁業資源が豊富な見島であるが、八里ヶ瀬の資源保護等にむけたシンポジウムも開催されている⁸⁾。具体的な実習地には、砂見田海水浴場（図 4）を選んだ。ここは、宇津港定期船乗り場のすぐ隣にある見島では唯一の砂浜で、近くにキャンプ場、海の家食堂（季節営業）、高麗芝が広がる天然のキャンプ地観音平や正観音が祭られている観音寺があり、港内でありながら水がきれいな海水浴場である⁹⁾。



図4 海からの砂見田海水浴場

3) 実習日時

実習は 2010 年 8 月 8 日（日）に実施した。見島と萩間の船の運行について、2010 年度は 7 月 20 日から 8 月 31 日間の土曜、日曜、祭日は 1 日に 4 便発着しており⁴⁾、萩港を始発である 8 時 20 分発の便で出発し、最終便である宇津港 16 時 5 分発の便で萩へ戻るよう計画・実施した。

4) 実習準備

実習前に第 1 回ミーティングとして、教育スタッフによる実習ラフプランに関する打ち合わせを行い、実

習の目的、対象者、場所、タイムスケジュール、必要物品、注意事項等の確認を行った。実習前日にスノーケリング器材、熱中症予防のためのドリンクおよび救急用具、実習記録用機材等の準備および動作確認を行った。実習の記録にはデジタルカメラ（Panasonic、DMC-FT1）を用いた。これは、水深3mまでの水中撮影が可能な防水設計であり、スノーケリングをしながら海水の中でもケースを用いずに写真撮影が可能である。また、砂や塵に強い防塵設計であることから¹⁰⁾、今回の実習記録用カメラに選んだ。

実習器材の準備後、第2回ミーティングを教育スタッフに加えて学生スタッフも含めて打ち合わせを実施し、各スタッフの業務分担、担当生徒、注意事項について確認した。また、見島には世界的に珍しい「ゆりや貝」という美しい緑の小さな貝が生息していることが実習主任からスタッフに伝えられ、時間があればこの貝を探すことも決定した。これは、薄いグリーン色で約2mmの珍しい貝で、昭和天皇が萩市笠山から見島を望んで「秋ふかき 海をへたててゆりやかひのすめる見島をはるか見さく」と詠まれたことでも知られている⁹⁾。なお、不慮の事故に備え、スタッフおよび参加者全員は傷害保険へ加入した。

3 結果および考察

1) 萩港出航準備

スタッフと参加者は萩港のチケット売り場で合流し、簡単な挨拶のみで乗船準備を行った。大学からのスタッフは参加者とは初対面であったため、事前に作成したネームプレートを着用した。

高速船「おにようず」には大型クーラー、スノーケル、ブルーシートを用いた日除け用タープ等の大型荷物は船内へ持ち込めないため、乗船前に船着場の横にある荷物受付所（図5）で預けて別料金を支払う必要があり、大人1名の萩港と見島間の片道旅客運賃は1,890円であった⁴⁾。



図5 定期船荷物受付所

2) 見島宇津港到着

宇津港には定刻通り9時50分に到着し、降船後に宇津待合所内でスタッフと参加者の自己紹介を含めた対面式を行い（図6）、各スタッフと担当生徒との交流を始めた。



図6 スタッフと参加者による対面式

宇津港から砂見田海水浴場へは歩いて約5分だが、大型器材は見島サポートスタッフの協力により軽トラでキャンプ場に運んで頂いた。キャンプ場へ到着後、生徒とスタッフの体力消耗と安全確保のため、日除け用タープをキャンプ場の施設の屋根に繋ぎ、直射日光を避ける日陰を作った（図7）。海からの風が強かったため、竹を用いた骨組みの取り付けとロープのテンションを高めることが必要となった。



図7 日除け用タープの設営

3) 海浜実習

その後、生徒は学生スタッフと海浜実習に向かったため、生徒の保護者を中心とした昼食を準備するグループに分かれて実習を開始した。

海浜実習はスノーケリングインストラクターと共にスノーケリングを実施するグループ（図8）と砂浜から浅瀬が続く海水浴場で海水に慣れながら海洋生物を探すグループの2つに分かれた。



図8 スノーケリング実習

スノーケリング講習はスノーケリング指導者教本¹¹⁾の内容を参考にして行ったが、時間的な制限もあったことから、スノーケリング・ジャケットを用いずに実施した。安全に浅瀬で海中生物を観察するために必要なマスク、スノーケル、フィンの使用方法を中心に講

習を行った。このスノーケリング（Snorkeling）は「水面上を漂うようにして移動し、口にくわえたスノーケルを通して呼吸活動を継続しながら、水面下に没することなく水中の様子を観察する活動」と定義されスキューバダイビングとは区別されており、良く使用されるシュノーケリング（Schnorkeling）という呼び方はドイツ語による単語である¹¹⁾。

また地元漁師である見島スタッフの協力により、宇津港から宇津観音崎経由、北灯台（図9）までのボートクルージング（約20分）を2回実施した。

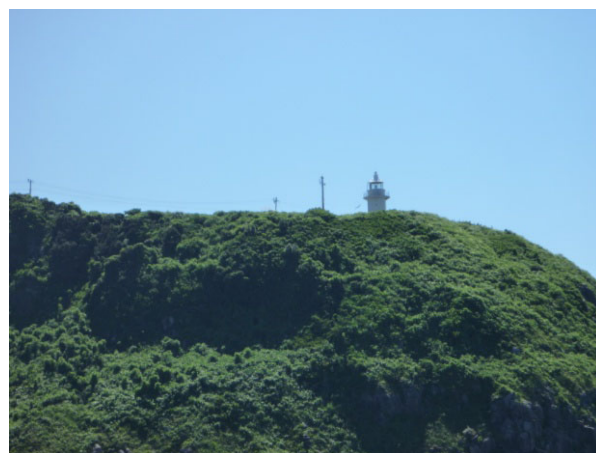


図9 北灯台



図10 クルージング参加者

観音崎には宇津観音堂（萩市指定文化財、図11）があり、クルージング中に海から眺めることが出来た。



図 11 船から見た宇津観音堂

加えて、スノーケリングインストラクターが同行し、ボートエントリーによるスノーケリングを3名が観音前（水深約 20m）において 20 分間実施した。海水の透明度が高く魚種も豊富であったが、潮流が速かったため多人数のスノーケリングになると参加者が広がり過ぎ、十分な監視ができなくなる等の危険性が感じられた。今回は船と海からのサポートにより、参加者は美しい海をスノーケリングによって安全に堪能することができた。

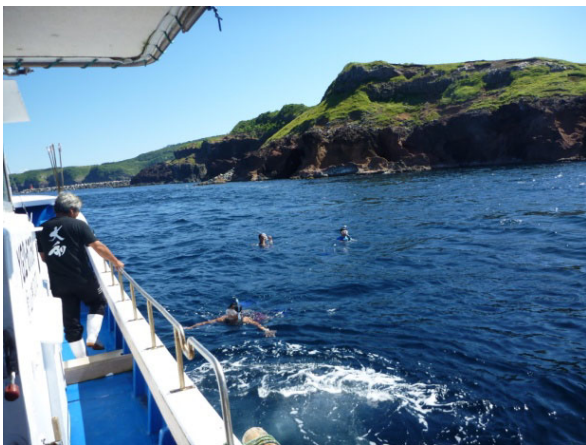


図 12 ボートエントリーによるスノーケリング

残念ながら今回は都合上、ゆりや貝を探す十分な時間を確保できず発見することは出来なかった。ゆりや貝に出会うことは次回以降に再挑戦することとした。

4) 宇津港出航準備

実習は計画した時間通りに進み、全員無事に宇津港出航予定時間前に宇津待合所に集合することができ、今回の実習についてのミーティングを行うことも出来た。この待合所には 200kg 以上であるクロマグロの釣果写真が多数飾られており（図 13）、その中には松方弘樹さんのものも含まれていた。



図 13 クロマグロの釣果写真

5) 参加者の感想

なお、学生サポートスタッフの実習に参加しての感想は以下の通りであった。

- 私は障害児を指導する大変さがよく分かりました。担当した生徒は自閉症で、話しかけても反応がなく何を考えているのか全く分かりません。いきなり走り出したり、暴れたりもう意味が分かりませんでした。私が注意しても何も聞いてくれないけど、生徒のお父さんが注意するとちゃんと聞いていて、やっぱりすごいなと思いました。でも最初は手も握ってくれなかったのに、だんだん接していくうちに握ってくれるようになって嬉しかったです。
- スノーケリングは初めてで不安もあったけど楽しくできました。日頃は行けない深い所でもスイスイ行けるし、泳ぐのが苦手な私としてはすごく気持ち良かったです。魚や貝もたくさん見れて感動しました。

- ボランティアに行き行って感じたことは、生徒さんや保護者の人と少しの時間でも関わることができて、本当に良かったと思えました。あんなに、身近で話しができて、関わることができたので、障害をもった人を援助したりする難しさを改めて実感し、また知識や技術だけではなく、今回のようなボランティアに積極的に参加することは、とても大切だということもわかりました。
- 生徒さんの話しかけてくれる言葉ひとつひとつに、必死になって伝えてくれようとしている姿は、とても輝いて見えました。
- 見島に行けたことは、すごく貴重なことだけど、それ以上に生徒さんと関わったことが、とても貴重なことだと思えました。
- 今回は、ボランティアに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

4 総括

事前の計画および打合せと山口福祉文化大学の教員および学生、萩総合支援学校の教諭・生徒・その保護者、見島スタッフの協力により、参加者・大学・総合支援学校全てに実りある実習を安全に実施することが出来た。

5 謝辞

本研究は「平成22年度ひとつづくり財団研究・研修助成事業助成金（山口県ひとつづくり財団）」および「平成22年度山口福祉文化大学学長裁量経費研究費助成（山口福祉文化大学を中心とした野外教育の実践、研究代表者：国広勝代）」の補助を受けて実施したものである。ここに記して謝意を表す。

引用・参考文献

- 1) 山口県教育委員会；山口県特別支援教育ビジョン実行計画（第1期），2006
- 2) 山口県教育委員会；山口県の特別支援教育，2008
- 3) 山口県立萩総合支援学校；学校概要，<http://www.hagi-s.ysn21.jp/>，2010年8月24日
- 4) 萩海運株式会社；山口県萩市平成22年度時刻表大島/相島/見島，2010
- 5) 全日本磯釣り連盟 西日本支部，山口県磯釣り連合会監修；山口の海釣り「日本海編」，中国新聞社，p.46，1999
- 6) 萩市役所観光課；第13回萩クロマグロトーナメント2010，http://www.city.hagi.lg.jp/portal/bunrui/detail.html?lif_id=28050，2010年8月17日
- 7) 萩市役所広報課；松方弘樹さん、特大マグロ釣る2年連続で300キロ超，http://www.city.hagi.lg.jp/soshi-ki/detail.html?lif_id=29116，2010年8月30日
- 8) 萩市広報課；見島八里ヶ瀬シンポジウムを開催，http://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/detail.html?lif_id=30129，2010年8月17日
- 9) 萩海運見島案内図；砂見田海水浴場，http://www6.ocn.ne.jp/~hkaiun/sumida_kaisui.html，2010年8月24日
- 10) Panasonic；デジタルカメラ DMC-FT1，<http://panasonic.jp/dc/ft1/tough.html>，2010年8月22日
- 11) 日本スノーケリング協会；スノーケリング指導者教本，2006